

シカやイノシシをわなで捕獲し、カワウを猟銃で仕留め る。それで生計を立てる日が来るとは思わなかった。

戸田英作さんは、約2年前から専業の猟師として暮らす。 「山がごちそうで、川も空もごちそう。いや、天職かもしれな いですね。ほんとに」。自宅がある中神ノ川地区の周辺にわ なを30か所仕掛け、数日に1回のペースで見回る。夏から 冬は、四万十川のアユを食べるカワウを撃つ。

シカは1頭当たり1万7千円、イノシシは1万3千円、カワウ は1羽当たり5千円。食害をもたらす鳥獣の捕獲報奨金が 主な生活資金だ。シカとイノシシは食材としてもいただく。

「捕ったら地元の人が喜んでくれるんですよ。『いつもあり がとう』って。農林漁業で生きている人らにとって、作物やア ユを食われた時のショックはすごく大きい。だから、誰かが やらないかん仕事だなと」。

3~5人ほどで行う鳥撃ちが特に好きだという。群れを追 い立てる役と、待ち伏せて撃つ役に分かれての猟。飛び去 るカワウを散弾銃で狙うと、轟音と共に獲物が落ちる。

「みんなでやるチームプレー。それが楽しい。外したら『次

はこうしよう』みたいに話し合ってね」。

仁井田地区で生まれ育った戸田さん。20歳ごろから東 京で働き、22歳からの1年間はワーキングホリデー先の ニュージーランドで過ごした。だが、どこにもやりたいこと はなかった。父が経営する町内の老人ホームで働きつつ、 今から10年前の25歳で狩猟免許を取る。趣味のつもり だったという。

窪川猟友会の「師匠」たちに猟のイロハを学び、その面白 さにはまった。数年後には、同年代の狩猟仲間と一緒に、高 知県猟友会の青年部を立ち上げる。高知市などには「猟に 行きたくても猟場が分からず行けない」という若手の狩猟 者が多く、彼らを受け入れる活動を進めている。

「今、猟師の新しいコミュニティーがどんどん広がってま す。猟師に希望はあるはずです、絶対。僕がそのモデルケー スにならないとし。

自宅は、熱心な林業家だった祖父の土地に立つ。田畑を 柵で囲いながら「シカとイノシシがおらんかったらどればあ 楽なことか | と汗をぬぐっていた姿を思い出す。

町にはこんな waza も

## aza!! カマキリが大好き! 佐竹凛さh(写真後列中央) 北ノ川小学校6年

カマキリが大好きで、飼育中は容器に入れて学校に通うほど。「目とか鎌の部分が好き」。クラスメートも 放課後に餌のバッタを探して協力。夏はカマキリが成長する季節だ。新しい出会いを楽しみにしている。

こだわりの「技」できらりと光る四万十町の人々を紹介します。ちょいwaza!!は随時募集中!▶ **回転**型





四万十の魅力

学校ホームページが新しくなりました。

https://sites.google.com/g.kochinet.ed.jp/shimanto-h noteも始めました。公式インスタグラムと合わせて、 ぜひフォローしてください!!





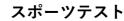






### 対面式・部活動紹介

対面式で1年生と2・3年生が交流した後、 各部が活動内容や魅力を紹介しました。1年生 が真剣に話を聞いてくれました。



握力や上体おこしなど7種目をテストしまし た。得意な種目でも苦手な種目でも、みんな良 い結果が出るよう頑張りました。

#### 新入生仲間づくり研修

生徒会が企画したレクを行いました。最初は 緊張感がありましたが、少しずつほぐれ、1年 生同士の仲を深めることができました。

#### 遠足

ビーチフラッグや借り物リレーなどの全学年 でのチーム対抗レクや各クラスでのレクを行い、 生徒同士の仲を深めることができました。







# じ ゆ う ( #地域で挑戦する、高校生たち







「じゆうく。」では、定期テスト対策も実施しています。スタッフに質問したり、友達同士 で教え合ったり、1人で黙々と進めたり。生徒それぞれの目的に合わせた環境を用意していま す。2学期以降も実施予定です。ご利用を検討される方は、お気軽にお問い合わせください!

> 【お問い合わせ先】 町営塾「じゆうく。」 **₹050-5482-3339**